

令和4年度事業計画

(2022年1月1日より12月31日まで)

事業運営の基本方針

建築を含めた文化全般に対する世間の興味と関心を高め、建築文化の発展に貢献することを目的とし、4つのカテゴリの中から展覧会を企画する。ギャラリーでの展覧会会期中に、シンポジウム、講演会、ワークショップ等を開催するとともに、他の公益法人、機関等とも連携し、広範にわたり情報文化発信を行う。

1. 公益目的事業

(1) 展示事業 (定款 第4条第1号～第3号)

① 建築文化及び関連する支援活動

ア ちひろとまこと・生活と仕事 展

内 容 女性として初めて東京藝術大学の建築家に入学し建築家となった女性建築家の草分けである奥村まこと（1930-2016）と、にじみやぼかしを特徴とした色彩と柔らかいタッチで多くの子どもの絵を描き平和を願った作家いわさきちひろ（1918- 1974）。二人の自立した女性の生活としごとを振り返る。信念を曲げず、仕事に打ち込むと同時に暮らしにも手を抜かず家庭を大切に二人の女性の共通点から、現代の女性活躍のヒントを探す。

期 間 2022年5月19日から8月18日

方 法 ふたりの接点であるまことが設計した「黒姫山荘」や伊豆のアトリエ、まことの拠点である岐阜と練馬での暮らしを起点にふたりの女性の仕事と生活の様子が見える資料を「図面」「アルバム」「ことば」や「スケッチ」ともに展示する。

② 教育普及活動展

イ 月で暮らそう、月であそぼう 重力1/6のワンダーランド展

内 容 人類の未来を担うジュニアたち（α世代）の宇宙への興味・関心・好奇心を募り、「例えば月に暮らすとしたら…」をテーマに未来の暮らしを衣食住の専門家が次世代たちと一緒に考える。完成したアイディアは展覧会を通して広く発信し、来館者と共有、共感することづくりをする。月の重力が地球の1/6という環境設定を生かし、月居住のイメージを膨らませ自由なアイディアを表現する。全体監修に向井千秋氏を招聘し、宇宙開発の状況と未来の子ども達のメッセージを発信する。

期 間 2022年12月9日から2023年3月2日

方 法 9歳から18歳のジュニア世代を開催前9か月の期間をかけワークショップを行い月での暮らし「衣食住」を創造し、宇宙ヘルメット、月暮らしのショートムービー、宇宙でのご馳走アイディアを専門家のサポートを得ながら考え会場で発表する。

③ 時代を反映したトピックス展

ウ 石川直樹写真展「STREETS ARE MINE」

内 容 極地から都市にいたるまで、世界中でフィールドワークを繰り返しながら撮影を続けてきた石川直樹（1977-）。2020年、新型コロナウイルスが世界各地に及び、国や地域をまたぐ移動が困難となる中、石川の眼差しは緊急事態宣言により人の居なくなった渋谷の街に向けられた。人通りのまばらになった街路に出没する小動物或いは高層ビルから望む街並みに映る生命の動き。コロナ禍の東京を独自の視点でとらえた写真展。

期 間 2021年12月10日から2022年2月3日
方 法 会場を街並みと室内をイメージした構成とし、写真作品約90点、と映像作品を展示する。

エ 食と暮らしを考える、日本は発酵の楽園 展

内 容 コロナ禍は足元の暮らしを見つめる機会となり、食への関心を高めた。家庭でも手軽に作れる味噌、醤油、米麴、酒麴、などの発酵食品は長期間保存可能で、味も良く静かなブームとなっている。発酵文化は日本が世界に誇る食文化でもあり、人々の営みや蔵や工場などの建築にも連綿と伝統が受け継がれている。

日本の発酵文化を土づくりから、生産の現場までそのサイクルを追い、目に見えない微生物の世界に注目し、そのメカニズムを伝統的な暮らしの視点と蔵や工場などの生産の現場である建物の有り様の二方向から探る。

期 間 2022年3月1日から2022年5月12日
方 法 発酵の文化、メカニズム、サイクルを解説し、建築視点から生産の現場や自然の摂理にかなった建築の知恵を紹介する。味噌づくりや自然農法の取り組みも記録映像、写真等で紹介する。

④ 現代アート展

オ 千田泰弘 - 光の数式 - 展

内 容 世界各地で高く評価され、各国の芸術祭への出展のほか、イルミネーションアート、舞台美術、レクチャー、ワークショップなどにも精力的に取り組む国際的に活躍するアーティスト、千田泰広(1977-)。千田は、近年では「世界の優れた9人のライトアーティスト」の一人として紹介されている。作品のテーマは「空間の知覚」と「体性感覚の変容」を主題としている。既存の場をいかしながら、光を素材とし、綿密な計算式を光の線に替え空間を構成する。事物にたいする固定の“イメージ”という縛りから、観客を解放していくたくらみをもつ企画。

期 間 2022年3月1日から2022年5月12日
方 法 イルミネーションアートを中心に千田の作品約3点を会場に配置し、観客に光の空間を体験するしかけづくりをする。会期中、作家との対談等を通じて現代アートの魅力を知る機会とする。

(2) シンポジウム・ワークショップ(定款第4条第4号)

文化及び芸術に関するシンポジウム、セミナー等の企画、誘致及び開催
ア～オの展示会関係として計画している。

(3) 巡回展・アウトリーチ(定款第4条第7号)
この財団の目的を達成するために必要な事業

ア 裏磐梯高原ホテル企画1「折り紙建築で巡る旅ー茶谷正洋・亜矢の世界ー」展

内 容 東京展のスピノフ展示。一枚の紙に切り込みを入れ、折り、立体の建築を再現する。今回は、折り紙建築の考案者でもある茶谷正洋氏と娘の茶谷亜矢氏が製作した、世界中の建築の作品を紹介します。また、福島県の観光スポットや裏磐梯高原ホテルの折り紙建築も新作として展示する。「カミわざ」ともいえる多彩な制作技術を紹介し、折り紙建築で世界の建築を巡り旅する企画。

期 間 2022年1月12日～3月31日
場 所 裏磐梯高原ホテル

イ 裏磐梯高原ホテル 企画2「木組の家」展（仮）

内 容 木の性質を利用して、木と木を隙間なく組み合わせる「木組」。豊かな森林に恵まれ、木に親しんできた日本人は、古くから木組の技術を使って日常生活で使う小物から家具、そして住宅にいたるまで、さまざまなものを作り上げてきました。本展では、これらの木組を分解してお見せするとともに、出来る限り金物を使わない木組の家が出来るまでをご紹介します。木組を分解すると、普段は隠れて見えない職人たちの知恵や工夫、高度な技が見えてきます。木組の見え良くに触れる、その奥深い世界を紹介する。

期 間 2022年7月～9月（予定）

場 所 裏磐梯高原ホテル

(4) 芸術文化活動拠点提供（定款 第4条第5号）

建築及び芸術文化の表現活動拠点の提供

ア 東京都建築士会 「住宅課題賞」企画展

内 容 関東エリアの建築学部の卒業制作の優秀作品の展示

期 間 2022年10月25日から2022年11月11日

方 法 資料展示、パネルと模型資料による解説。公開審査による講評会を行う。

(5) 調査研究及び資料収集（定款 第4条第6号）

建築文化に関する調査研究及び資料収集

ア 過年度展示事業のアーカイブ化及び後年度展示事業の調査研究

内 容 過去の活動記録の整備次年度以降の展示事業について調査研究をする。

期 間 2022年1月1日から2022年12月31日

イ 企画・出版・教育・広報事業の調査研究

内 容 企画コンテンツの出版化について調査研究をする。

期 間 2022年1月1日から2022年12月31日

3. 法人の管理運営

①内部統制システムの整備推進

②長期将来ビジョン構想の推進

以上